

・5分前着席を心がけましょう

司式 熊田雄二牧師
奏楽 藤井真衣姉妹前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 12:1 聖なる 聖なる 聖なるかな

聖なる 聖なる 聖なるかな 三つにいまして一つなる**神の御名をば あさまだき おきいでてこそ ほめまつれ アーメン**

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 (詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰っしないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 74:1 主の道歩まん

わが主に赦され心安らぎ 新しき力心に満ちて**主の道歩まん 主の道 アーメン**

共同の祈禱 祈禱書7

キリストの二性一人格(三位一体後主日・その他適切な主日)

三位一体の第二位格である神の御子は、まことの永遠の神であり、み父と同質・同等でありながら、時満ちて、人間の性質を、それに属するすべての固有の性質や共通の弱さと共にとられ、しかも罪はなかった。彼は、聖霊の力により、処女マリアの胎に彼女の本質をとって身ごもられた。

そこで、二つの十全で区別された性質、すなわち、神性と人性とが、変換・合成・混合することなく、一つ的人格の中に、分離できないように結合されている。この人格は、まことの神またまことの人であり、しかも一人のキリスト、神と人との間の唯一の仲保者である。(ウエストミンスター信仰告白8章2節によるカルケドン信条：451年)

献 金 (黒) 大会開催日 (赤) 日本聖書協会 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 第一コリント16章13 - 24節 (新約聖書3 2 3頁)

説教・祈禱 礼拝は生命^⑩「礼拝式の中での報告」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 56:1 神ともにいまして

神ともにいまして 行く道を守り あめの御糧もて 力を与えませ

また会う日まで また会う日まで 神の守り なが身を離れざれ アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にましますわれらの父よ
願わくは御名をあげさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 67主イエスの恵みよ

主イエスの恵みよ 父の愛世よ 御霊の力よ ああ御栄えよ アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老

I 第一コリント16章

報告の時間は、通常けっこう長いものです。それは教会活動の豊かさを表わしています。今は、礼拝以外に集会がないので、報告も短くなっています。本来はもっと長い原因は、第一コリント16章を読めば分かります。パウロ書簡の終わりには「~によろしく」というフレイズがありますが、第一コリントを選んだのは、「ここまでが教え、ここからは報告」というのがはっきりしているからです。16章小見出しから見ていきましょう。礼拝の報告に当たるところです。

① エルサレム教会の信徒のための募金

エルサレムで、ユダヤ教からキリスト教に改宗した人たちは市民権を剥奪されてしまいました。しかし、大迫害の結果、弟子たちがチリジリバラバラになって、トルコやギリシャにも福音が宣教されることになりました。コリント教会もその恩恵を受けました。そこでパウロは、地中海伝道で各地にできた教会に、エルサレムの信徒たちのための募金を訴えているのです。これは教会の執事活動です。

② 旅行の計画

パウロは伝道旅行のための応援を要請しています。「マケドニア経由」というので、ギリシャ半島を北から南へ下る計画です。「場合によっては、冬を越す」とあるので、季節はだんだん寒くなる時期です。

7節。しかし「旅のついでに」立ち寄るようなことはしたくない、ちゃんと一定期間滞在して教えを強化しておきたい、と言っています。

8節。「しかし、五旬節まではエフェソに滞在します」というので、手紙を書いている場所はエフェソです。エーゲ海を挟んでギリシャの対岸のトルコ側の大都市エフェソから、いったん北へ向かって、マケドニアの町々の教会も訪ねてから南下したいというのが、伝道旅行の計画のようです。

10節～。伝道旅行のもう少し詳しい事情が書いてあります。弟子のテモテを先に送って準備させたいと言っているのです、コリント訪問計画は立ち寄りではないことが分かります。

12節。「兄弟アポロについては」。ギリシャ人の名前を持つアポロは、使徒ではありませんが、使徒並みに知られた有力な人で、ギリシャの大都会コリントの教会では「私はアポロにつく」という人たちもいたほどです。パウロはアポロに「あなたに会いたがっている人がいっぱいいるよ」と「しきりに勧めたのですが、彼は今行く意志は全くありません。」と言っています。知恵深いアポロは、今コリント教会に行くのはためにならない、と判断したようです。

それにしても、パウロやアポロやその他有力な使徒たちが次々とエフェソに行ったことが分かります。のちにローマの教会と覇権争いをしたギリシャ側の教会がエフェソだったことが、こんな報告の一端からもうかがえます。

③ 結びの言葉

15節。「ステファナー家は、アカイア州の初穂」。コリントやアテネを含むギリシャ南部のアカイア州で最初にクリスチャンになったのは「ステファナー家」でした。彼らは、伝道旅行するパウロたちに「対して労を惜しまず世話をしてくれた」とあるように、信仰の情熱が伺えます。

第一世代の信仰の情熱が伺えるのはステファナー家だけでなく、17節「ステファナ、

フォルトナト、アカイコ」と何人もいました。コリント教会は、すでに役員をそろえた有力な教会になりつつあったことが分かります。

19節からは「よろしく」フレイズです。

「アジア州の諸教会が」：ガラテヤ地方と、エフェソ、コロサイなどの教会。

「アキラとプリスカが、その家に集まる教会の人々と共に、主においてあなたがたにくれぐれもよろしく」：アキラとプリスカ夫妻はユダヤ人でしたが、以前ローマに住んでいました。ローマ皇帝が「ユダヤ人はローマから出て行け」と命令したので、イタリアからギリシャに逃げて、コリントの町でテント造りの仕事をしていました。そこに伝道旅行でパウロが来て、アキラとプリスカ夫妻の家に住み込みでアルバイトしながら伝道しました。パウロの伝道でクリスチャンになった夫妻は、コリント教会の基礎を据えると共に、その後パウロの伝道旅行に付いて行くようになりました。付いて行くだけでなく、「家の教会」という家庭集會を熱心に行っていた様子が伺えます。

21節以降は最後の挨拶です。

ところが22節は、いきなり吐き捨てるような捨て台詞です。「主を愛さない者は見捨てられるがいい」。詩篇には呪いの言葉もあり「アナセマ」と言います。詩篇をまるまる暗唱しているパウロには、アナセマも身に付いているようです。とにかくコリント教会はトラブルが多く、主導権争いによる教会一致の乱れ、結婚と離婚をめぐる性道徳の乱れ、聖餐式の乱れ、異言を語る説教の乱れがありました。確かに「アナセマ」に値する人たちがいろいろいました。

しかし「アナセマ」で最後の挨拶を語るのは、パウロの真意ではありません。主を愛する者は「マラナ・タ」と言うがよい、これが真意です。「マラナ・タ」「主よ、来てください」。これに、23・24節の恵みと愛の挨拶が続いて手紙を閉じるのです。

④ パウロの手紙の最後は、報告に当たる内容が多く、第一コリントの場合、大きなことから小さなことまであります。

大きなことでは、大会の中に中会があることを思わせます。地中海大会の中に各州の中会があるというイメージです。

1節 「ガラテヤの諸教会」=ガラテヤ中会

3節 「エルサレム」=ユダヤ中会の中心教会

5節 「マケドニア州」=マケドニア中会 フィリピ、テサロニケ

15節 「アカイア州」=アカイア中会 コリント、アテネ？

19節 「アジア州」(現トルコ)=アジア中会 エフェソ、コロサイ

自分の教会だけでなく、他の教会のことも覚えて祈るよう献金を訴えました。

小さなことでは個人的なことです。

5節「私は」とパウロ自身の伝道計画のこと。

10節「テモテ」はコリントに行くが、12節「アポロ」は行かない。

17節「ステファナ、フォルトナト、アカイコ」らコリント教会の役員たちが来てくれて大変嬉しい。

19節「アキラとプリスカが」、またその他大勢の人が「よろしく」。

II 礼拝指針の改訂と上福岡教会での報告

① 上福岡教会の報告は、だいたい10～15分でしょう。例年、夏のこの時期は青少年修養会がたくさんあって、報告はちょっと長くなります。

② 新しい礼拝指針は、「報告」を一つの章として入れました。

第四十八条（報告） 教会行事、諸集会、特に礼拝への招き、大・中会、教会役員会の決定の通達、献金の奨励等は、礼拝者を教会の交わりと活動への参加を促し、その祝福へ招くものである。牧師と小会は礼拝時に会衆に報告すべきことをあらかじめ用意する。

毎週、朝拝前の小会祈祷会では何をするのかというと、主の日一日のシミュレーションをすると共に、報告事項を確認しているのです。それは、「礼拝者を教会の交わりと活動への参加を促し、その祝福へ招くもの」です。

礼拝指針の「報告」は第48条一つしかない条文ですが、一つの独立した第12章としました。しかも、第13章「祝福・祝祷・派遣」の前に置きました。そこで、教会によっては、報告をしてから頌栄・祝祷としているところもあります。このことは、報告が礼拝の正式な一部であることを示しています。

上福岡教会では、多くの教会と同じく、礼拝の様式美から、頌栄・祝祷・後奏が終わって、いったん礼拝は終わったかのような感じで報告に入ります。しかし、式次第の最後に報告を入れて、「礼拝式の中での報告」としているのです。

- ③ そこで、改正前の礼拝指針では「祝祷が終わるまでは、必要なく席を離れてはならない」としていたのが、改正された礼拝指針では「報告が終わるまでは」となっています。明らかに報告までが礼拝であることを覚えなければなりません。もちろん、「必要なく席を離れてはならない」のですから、礼拝の途中でも、必要のある場合は例外です。
- ④ 上福岡教会でも、報告は、大きいこと小さいこと、いろいろあります。大会・中会のことから、上福岡教会内の個人的消息まで、週報に従ってなされます。これらはすべて「礼拝式の中での報告」です。